

業績の推移 (= 欠損、 = 推定値)
(単位: 千円)

決算期	増加率 (%) 売上高	増加率 (%) 営業利益	増加率 (%) 経常利益	増加率 (%) 当期純利益	配当総額	申告所得 (千円)
令XX 3	-	-	-	-	-	-
	4,100,000	利益計上	利益計上	利益計上	0	-
XX 3	5.0	-	-	-	-	-
	4,325,000	12,000	10,000	5,000	0	-
XX 3	2.9	34.6	-	-	-	-
	4,450,909	16,151	11,834	20,020	0	-
XX 3	3.0	333.9	-	-	-	-
	4,584,423	70,083	40,013	18,541	0	-
XX 3	6.5	22.8	31.9	51.9	-	-
	4,882,410	86,027	52,783	28,169	0	-
XX 3	1.4	11.9	3.9	3.4	-	-
	4,950,128	75,819	54,837	29,128	0	-
XX 3 予	5.0	32.0	64.0	72.0	-	-
	5,200,000	100,000	90,000	50,000	-	-

今期予想は当社公表数字

減価償却費
(単位: 千円)

決算期	減価償却	備 考
令XX 3	40,000	売上原価、販売費および一般管理費を計上
XX 3	42,000	売上原価、販売費および一般管理費を計上
XX 3	43,577	売上原価、販売費および一般管理費を計上
XX 3	53,799	売上原価、販売費および一般管理費を計上
XX 3	43,284	売上原価、販売費および一般管理費を計上
XX 3	41,096	売上原価、販売費および一般管理費を計上

業績特記事項

【令和XX年 3月期】

特殊鋼工具、不動産賃貸は前期並みも、超硬工具が微増となったため、前期比微増収となった。原料相場上昇による粗利益率低下、人件費増による販管費増により支払利息を吸収できず、経常損益以下で欠損計上となった。

【令和XX年 3月期】

超硬工具は既存主力先2社からの受注が堅調、特殊鋼工具も前期並みを維持し、前期比微増収となった。人件費、減価償却費負担が微増となったものの、増収効果に加え、利幅の厚いカスタム案件増もあって各段階利益は増益(黒字転換)となった。

【令和XX年 3月期】

不動産賃貸は減収も、超硬工具が微増、特殊鋼工具が増収となったため、前期比増収となった。原料相場上昇で粗利益率低下、人件費増による販管費負担増も、増収効果により各段階利益で増益となった。

以上